

ユノムラ沢を見送って進むと、すぐ四郎の滝となる。左岸を案に登ることがができる。

この上もナメが続く。すぐクロノ沢出合。水量はどちらが多いともいえない。ほぼ同等。

二郎の小滝を越える。その少し先にもう一つ二郎の滝があり、これを越えたところで長かったナメも一段落である。

少し河原を歩いて、県境になっているイソサネ沢出合。県境というから多少は目立つ沢かと思ったが、ほんの小さな小沢にすぎなかった。

なおも本流を遡る。三郎の滝が出てくる。左岸はゆるやかな傾斜で滝の上に出れるが、右岸は垂直。こっちの方を登る。

ナメがしばらく続いて地神沢出合。地神沢の方が水量も多いが、そっち

は下降に使うことにして、右の沢に入る。

倒木が多くなってきた。小滝がいくつか出てくるが、いずれも何なくパス。ナメの傾斜がきつくなつてきて、それが尾根近くまで続く。

沢の水がなくなるすぐ手前で昼食。尾根にはすぐに上がった。

〔タイム〕 遡行開始(八・五〇) ↓ ク

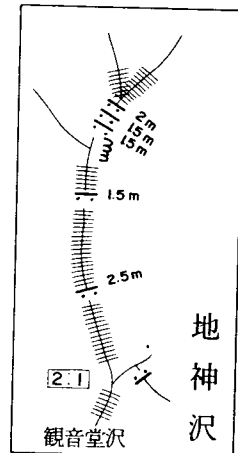
地神沢

一九八二年九月一九日

尾根から五分も下ると沢筋となる。

下ってゆくとガレ場となり、そのすぐ下よりナメとなる。本流とはその先で合わさり、すぐ三つの小滝が出

地神沢



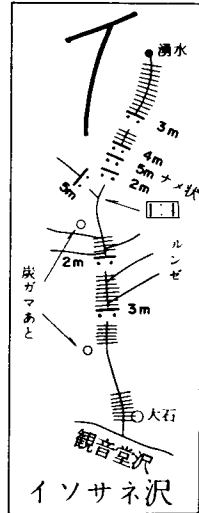
ラツ沢出合(九・〇五) ↓ クロノ沢出合(一〇・〇五) ↓ 地神沢出合(一〇・三五) ↓ 尾根(一一・五〇)

てくる。このあとナメは一時途切れるが、すぐ再開。

トチの実が落ちている。実だけはじき出され、岩のくぼみにたまっ

ている。拾い集めたら、五分ほどで八キロもとれた。おかげでザックはぐつと重くなる。

このあとナメの途中で小滝が二つ出てくるが、いずれも何なく下る。快適な下りだ。気持良くナメを下って、先ほど遡っていった二俣に着く。



今日の沢登りはこれでおしまい。あとはサルナシやマタタビを探り

つつ、ゆっくりと下る。

(記)

「タイム」 下降開始(一一:五〇)↓

下降終了(一二:四五)

イソサネ沢

一九八三年八月二〇日

沢の大きさ、規模からいってあまり期待はもてないが、県境になっていくということで、なぜか気になっていたイソサネ沢を目指して、いつものように戸上向の空地に車を置いて

て出発。

一時間程歩いてから、クソハナ沢を下降して観音堂沢本流に降り立つ。

今日の観音堂沢は、台風五号による大雨の影響がまだ残っていて、水量

も多く、水の流れも速い。こんな時には、いつも簡単に通過してしまうナメが意外と通過困難な場所になっている。三〇分程かかってイソサネ沢出合に到着した。

一時出合発。すぐV字に切れこんだ沢筋となり、ナメとなる。左右からは何本ものルンゼが合流してくる。やがて二俣。右俣に入る。

小滝がかかり、ナメも急峻となってきた。やがて源流。水源は冷たい清水であった。

追記 イソサネ沢に入るため踏跡をたどっている途中、サクラバシ沢のあたりでニホンザルの群れに出会った。私の視野に入ってきたのは二頭のみであったが、鳴き声や物音の具合からいって相当数かなりの範囲に散らばっていたようだ。茂庭にはかなりのサルが住んでいる。